



会長に再任されて

会長 馬場康維

このたびの東日本大震災に際し被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。会員の皆様またその関係者の皆様にも、直接的あるいは間接的に被害を受けられた方がおられると思いますが、一刻も早い復興を祈念しております。

岡太彬訓前会長の後任として、2年前日本分類学会会長に選出され会長職という重職を何も分からないままに勤めさせていただいておりましたが、この度引き続き会長をお引きうけすることになりました。浅学非才の身、重責を担うには非力ですが日本分類学会の発展につくすつもりですので会員の皆様のご協力をお願いいたします。

日本分類学会は、国際的な連合体である IFCS (International Federation of Classification Society) の一員として活動してまいりました。また、国内では統計関連学会連合のメンバーとして統計学関連の5つの学会と協同した大会の開催等の事業の推進を行っております。

日本分類学会は、国内活動のみならず国際的な活動を視野に入れて結成された学会と認識しております。IFCS の設立にも積極的に関与してまいりました。IFCS の大会は、ほぼ2年に一度の間隔で開催されていますが、1996年には神戸で IFCS-96 を開催いたしました。IFCS 大会には、故林知己夫 IFCS 会長に因み Hayashi Chikio Award Program と名づけられた若手研究者の大会参加旅費を支援する制度があります。IFCS における日本の役割の重要性をご理解いただけたと思います。最近では日本からの応募が少ないようですので、若手の会員の皆様の積極的な応募を期待しています。

海外の分類学会との連携と言う意味では、IFCS の外に2つの活動が挙げられます。日本とドイツの2国間の日独分類会議が次回で4回目になります。第1回は2005年9月に矢島敬二元会長が議長となり品川で開催されました。その後2回はドイツで開催され、この度の第4回シンポジウムは、来年3月に同志社大学で開催されます。当初の計画では今年

<目次>

・巻頭言「会長に再任されて」 馬場康維	1
・会費値上げについて	2
・学会誌創刊について	2
・第3回日独分類シンポジウム参加報告と第4回同シンポジウムのご案内	3
・ADAC について	3
・役員改選結果報告	4
・総会記録	5
・運営委員会記録	9
・幹事会記録	10
・研究報告会記録	15
・IFCS (国際分類学会連合) 関連	17
・関連学会活動	18
・国際会議開催情報	21
・事務局から	21

8月の予定でしたが、震災の影響で延期をいたしました。また、分類に関する学術誌の創刊にも関与してまいりました。岡太彬訓前会長の時代にドイツ分類学会 (GfKI: German Classification Society) およびイタリア分類学会 (CLADAG: Classification and Data Analysis Group) との連携により学術雑誌 *Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)* が創刊され Springer から発行されております。

国内の活動を振り返ってみますと、会員向けの研究報告会、シンポジウムといった定例的な研究発表の他、対象を会員以外にも広げたセミナー等を開催してまいりました。これらは学会としての通常の活動といえますが、当学会には学会誌がないという学会としてはいささか欠けている部分がありました。過去には、口頭発表の電子ジャーナル化の試みもありましたが、それも現在はなくなっております。会員の学術研究の発表の場として、また情報獲得のため学会誌は重要なものでありますので、昨年度、運営委員会および総会で提案し和文誌の創刊が認められました。現在、岡太彬訓編集委員長のもと、創刊

号の発刊に向けて着々と準備を進めているところで
す。

このように多方面の活動を行っているにもかかわらず、日本分類学会の事務局組織は設立当初の小さな事務局を踏襲しており若干名の幹事が運営するという非常に小さなものです。他学会との連携、海外学会との連携、ジャーナルの発行等、様々な事業を展開し、設立当初に比べて格段に仕事が増えているという現状を考えますと会員の皆様へのきめ細かなサービスのためには事務局組織の強化が必要です。今後、学会の運営組織について見直しを行いたいと考えております。

昭和 58 年 6 月の日本分類学会の設立趣意書には「“分類”はあらゆる科学における基本的な思考操作である。しかしながら、このことは従来とかく看過されがちであった。“分類を通じて物事を知る”ということがあまりにも当然であるために改めてそれが固有の方法であると意識されなかったのである」、
「科学の分野が相互に成果を共有するという方向から“分類”そのものを再考する必要がある」、「“分類”は科学の本質に直結する問題であり、基礎的な考察からより具体的な適用まで、きわめて広範囲に亙るものである。それゆえ、分類の研究にとって基礎理論と応用とが一体となって進む研究体制が必要である」、と分類学会設立の背景と趣旨が述べられています。この状況は今も同じです。あらゆる科学の基礎である“分類”の研究は科学にとっても不可欠のものであります。“分類研究”への皆様の積極的な参加を願ってやみません。

(統計数理研究所)

会費値上げについて

林 篤裕

会員の皆様方におかれましては、日頃から学会の諸活動と運営にご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、平成 22 年 12 月 19 日に開催されました運営委員会および臨時総会において、会費の値上げについてご審議いただき、ご承認いただきました。ご理解いただきましたことに感謝を申し上げますと共に、改めてその経緯をここに記し、ご説明申し上げます。

本学会は長らく年会費を 3,000 円として運営してまいりましたが、本学会は、会員サービスとして学会誌を発刊していないという弱さがありました。昨今の諸学会における学会活動の活発化をうけ、日本分類学会におきましても、従来の研究会・シンポジ

ウムの充実や積極的なセミナー活動の推進に加えて、新規事業として平成 23 年度より和文誌を発刊することを計画し、会員の皆様に満足していただける学会を目指して活動の展開を行ってきました。新規事業である学会誌の創刊につきましては、現在、岡太彬訓委員長の下で準備が進められております。

このような状況の下、学会の財政基盤の確立を踏まえ、会費の値上げを提案し、平成 22 年度第 3 回運営委員会、および臨時総会におきまして、個人および賛助会員について会費の変更が承認されました。この会費の値上げによる学生会員の負担増を避けるために新たな会員種別として学生会員を設けることが併せて承認されました。また当然ながら、会費の徴収を今まで以上にきめ細かく行い納入率を上げることも計画しております。

以上のような経緯で、会費の値上げをご審議いただきお認めいただいた次第です。なお、この新しい会費(正会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 30,000 円)は平成 23 年度から適用させていただきます。学生会員以外の会員の皆様方には負担増となりますが、学会の諸活動をさらに充実させ、会員や社会に対する一層の貢献ができるよう、今回の会費値上げにご理解をいただくと共に、ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

(九州大学高等教育開発推進センター)

学会誌創刊について

日本分類学会編集委員会委員長 岡太 彬訓

このたび、日本分類学会では学会誌を刊行いたします。本学会誌は、原則として日本語による論文を掲載いたします。それは、データ分析に関連するさまざまな分野での実践的な応用、あるいは、方法の開発、理論の発展において独創的なあるいは有用と考えられる業績をわかりやすい形で広く公開し、データ分析の理論と応用の発展に資するためであります。すでに、本学会の Web site において述べましたが、データ分析は、理論の発展と方法の開発ならびに実践的な応用とが密接に関連してこそ、実質的な意味をもった発展が可能であり、このような関連なしにはデータ分析の眞の発展はできないものと思います。そのような点から、データ分析に関連するさまざまな分野での実践的な内容からなる論文を理論的な内容からなる論文とともに積極的に掲載する方針であります。

本学会誌の目的と意義をご理解いただき、積極的なご投稿により斯界の発展に寄与して下さるよう会員各位にお願いいたします。なお、英文の論文は、Advances in Data Analysis and Classification

(ADAC)へ積極的にご投稿頂きたいと思えます。
ADACは、2007年より日本分類学会、ドイツ分類学会(GfKI: German Classification Society)およびイタリア分類学会(CLADAG: Classification and Data Analysis Group)と共同でSpringer社より刊行しております。

創刊号は本年8月発行を目標に、当面は年1回の発行を計画しております。学会ホームページに掲載されたJCSJournalFiles20110703.ziにある投稿規定および執筆要項に従って、LaTeX または MS Wordにより執筆した原稿のpdf ファイルを

jjes@ml.rikkyo.ac.jp

へお送り下さい。お問い合わせは、上記アドレスへお願いいたします。

(多摩大学大学院経営情報学研究所)

第3回日独分類シンポジウム参加報告と第4回同シンポジウムのご案内

第4回日独分類シンポジウム日本側組織委員
宿久 洋

2010年7月20日(火)～21日(水)にカールスルーエ工科大学(カールスルーエ、ドイツ)において、第3回日独分類シンポジウムが開催されました。カールスルーエはカールスルーエモデルとよばれる地域交通システムで有名で、郊外は鉄道として走り、市街地はトラムとして走る車両が縦横に走る地方の小都市です。

日本からも多くの参加者があり、合計24件の発表がありました。引き続き行われたGfKI2011でも多くの日本人研究者が発表を行いました。

第4回日独分類シンポジウムは当初2011年8月に同志社大学(京都市)で開催される予定でしたが、震災の影響もあり、2011年3月9日(金)～10日(土)に延期して開催することが決まりました。3月の京都は桜には少し早いですが、東山花灯路が開催され多くの寺院仏閣がライトアップされます。また、特別拝観も行われる穴場の時期です。是非多くの皆さんにお越しいただき、活発な研究討論を行うとともに初春の京都をお楽しみいただければと思います。

この第3回および第4回シンポジウムの成果は、後日Springer社から査読付き論文集として公開されることになっております。日本分類学会会員のみならず、みなさまの積極的な貢献を期待しております。

(同志社大学文化情報学部)

ADACについて

日本分類学会 ADAC 担当 今泉 忠

日本分類学会の活動の特徴の一つとして、海外の分類に関する諸学会と連携した様々な学会活動を行っていることがあると考えます。例えば、日本分類学会はIFCS(International Federation of Classification Society)のメンバーであることが挙げられます。

このような国際的な事業活動の中で、日本分類学会の事業としてドイツ分類学会(GfKI: German Classification Society)およびイタリア分類学会(CLADAG: Classification and Data Analysis Group)と共同で、Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)をSpringer社(ドイツ)より刊行(2007年より)事業に参加しています。

この論文誌で対象とする研究分野は、ADACのタイトルから想像されますように、データ分析や分類に関する理論や応用に関する広い分野であります。これは、3学会が「データ爆発時代」とも呼ばれる情報時代において、膨大なデータに関して単なる理論や応用を超えた新しい分野での様々な研究を推進することの重要性が一層増しているとの認識を持って発刊を計画したと解釈しております。論文誌ADACはJournal of Classification(JoC)と共に論文誌としてIFCSからのサポートされておりますので、この2誌が分類に関する国際的な論文誌であると言っても過言ではないかも知れません。

このADACへの投稿は、この3学会の会員に限定されること無く、様々な分野の研究者の方が投稿可能です。国際的な論文に投稿しますときに、日本国内で収集したデータに基づく研究では、データに関しての記述や説明がなかなか大変である場合がありますが、編集委員会のメンバーには日本分類学会の会員も居られますので、国際的に公平に評価されることが期待できます。

ADACに内容等については、日本分類学会のWeb siteでの情報提供または

<http://www.springer.com>

から詳細な情報を得ることができます。

(多摩大学経営情報学部)

訃報

平成23年6月7日、Professor Douglas Carrollがご逝去されました。Professor Carrollは、日本分類学会も加盟しているIFCSの設立時のメンバーのお一人であり、1996年から1997年にはIFCSの会長を務められるなど、IFCSのためにご尽力をいただいております。Memorial service (celebration of life)は平成23年6月18日にMorristown Unitarian Fellowship in Morristown, NJにてとりおこなわれたとのことです。

また、平成23年6月23日にProfessor Phipps Arabieがご逝去されました。Professor Arabieは、Journal of Classificationのfounding editorであり、editorを18年間務められました。そして、the Classification Society of North America (CSNA)の会長を務められました。

Professor CarrollとProfessor Arabieのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

役員改選結果報告

●平成19・20年度の役員改選結果報告

会則に従い、平成19・20年度の役員改選を行いました。なお、以下の所属の表記は選挙実施時のものになります。2名の選挙管理委員（今泉忠（多摩大学）、竹内光悦（実践女子大学））により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は、平成19年4月1日から平成21年3月31日までです。

平成19・20年度 会長

岡太彬訓（立教大学）

平成19・20年度 会計監事

林 篤裕（大学入試センター）

竹内光悦（実践女子大学）

平成19・20年度 運営委員（五十音順）

今泉忠（多摩大学）、大隅昇（統計数理研究所名誉教授）、大津起夫（大学入試センター）、狩野裕（大阪大学）、栗原考次（岡山大学）、佐藤義治（北海道大学）、繁樹算男（東京大学）、土屋隆裕（統計数理研究所）、豊田裕貴（多摩大学）、馬場康維（統計数理研究所）、林文（東洋英和大学）、水田正弘（北海道大学）、村上征勝（同志社大学）、矢島敬二（東京理科大学）、宮原英夫（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校）、宿久洋（同志社大学）、柳井晴夫（聖路加看護大学）、山岡和枝（国立保健医療科学院）、山口和範（立教大学）、山本義郎（東海大学）、吉野諒三（統計数理研究所）

また、運営委員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

平成19・20年度 幹事長

山口和範（立教大学）

平成19・20年度 幹事

豊田裕貴（庶務担当、多摩大学）

山本義郎（広報担当、東海大学）

土屋隆裕（統計数理研究所）

吉村幸（長崎大学）

●平成21・22年度の役員改選結果報告

会則に従い、平成21・22年度の役員改選を行いました。なお、以下の所属の表記は選挙実施時のものになります。2名の選挙管理委員（酒折文武（中央大学）、中山厚徳（立教大学））により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は、平成21年4月1日から平成23年3月31日までです。

平成21・22年度 会長

馬場康維（統計数理研究所）

平成21・22年度 会計監事

繁樹算男（帝京大学）

林文（東洋英和女学院大学）

平成21・22年度 運営委員（五十音順）

足立浩平（大阪大学）、今泉忠（多摩大学）、岡太彬訓（多摩大学）、大隅昇（統計数理研究所）、狩野裕（大阪大学）、竹内光悦（実践女子大学）、土屋隆裕（統計数理研究所）、豊田裕貴（多摩大学）、林篤裕（九州大学）、水田正弘（北海道大学）、村上征勝（同志社大学）、山口和範（立教大学）、山本義郎（東海大学）、宿久洋（同志社大学）、矢島敬二（東京理科大学）、柳井晴夫（聖路加看護大学）、吉野諒三（統計数理研究所）

また、運営委員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

平成21・22年度 幹事長

林篤裕（九州大学）

平成21・22年度 幹事

山本義郎（庶務担当、東海大学）

豊田裕貴（広報担当、多摩大学）

今泉 忠（シンポジウム担当、多摩大学）

竹内光悦（実践女子大学）

中山厚徳（長崎大学）

真鍋一史（青山学院大学）

総会記録

●平成 21 年度総会議事録

日時：平成 22 年 2 月 19 日(金)

場所：九州大学 アドミッションセンター

出席者 9 名

1. 議長選出

矢島敬二氏（東京理科大学）を議長に選出した。

2. 平成 20 年度事業報告ならびに決算報告

下記 2.1. および 2.2. について林幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

2.1. 平成 20 年度事業報告

1) 第 24 回通常総会の開催

平成 21 年 3 月 21 日(土)

多摩大学ルネッサンスセンターにて

2) 第 24 回研究報告会の開催

平成 21 年 3 月 21 日(土)

多摩大学ルネッサンスセンターにて

報告件数 6 件

3) 運営委員会の開催

以下の点について、主として電子メールを活用した打ち合わせを行った。

- ・シンポジウム、究報告会の開催、他学会への協賛
- ・統計関連学会連合へ対応
- ・統計関連の学会間の行事の調整や相互の情報提供を行う
- ・国内外の連絡調整窓口として機能する
- ・2008 年度の統計関連学会連合大会への協賛
- ・総会の議題

4) 運営委員会の開催

以下の点について、電子メールを活用した打ち合わせを行った。

- ・総会、研究報告会、シンポジウムの開催
- ・統計関連学会大会連絡委員会への参加
- ・総会の議題

5) 幹事会の開催

電子メールにより、必要に応じて連絡をとり審議した。

6) H21・H22 年度役員選挙について

7) Web サーバーの運営

広報担当幹事が担当して、学会活動の報告、計画を掲載した。

8) 国際分類学会(IFCS)への協力

分担金を負担し様々な活動へ協力を行った。

8) ジャーナル ADAC (Advances in Data Analysis

and Classification) を発行した。

9) 日独分類学会シンポジウム成果出版 (Cooperation in Classification and Data Analysis) をドイツ Springer より行った。

10) 他学会との交流と協力

- ・統計関連学会連合への協力
- ・理事会への参加
- ・絡委員会、大会実行委員会への参加
- ・連合大会への協賛
- ・ドイツ分類学会、イタリア分類学会への協力
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

2.2. 平成 20 年度決算報告

会計幹事 2 名（林篤裕氏、竹内光悦氏）の監査結果が林幹事長より説明があった（11 ページの平成 20 年度決算報告書(表 1)を参照）。

3. 平成 21 年度事業計画ならびに予算

下記 3.1. および 3.2. について林幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

3.1. 平成 21 年度事業計画

1) 第 25 回通常総会の開催

平成 22 年 2 月 19 日(金)

九州大学にて

2) 第 22 回研究報告会の開催

平成 22 年 2 月 19 日(金)

九州大学にて

3) 運営委員会の開催

必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

以下の点を検討課題とする。

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

4) 幹事会の開催

電子メールにより、必要に応じて連絡をとり、審議する。

5) 2009 年度統計関連学会連合大会の共催

6) セミナーの開催

7) Web サーバー関係

広報担当幹事が担当して、学会活動の報告、計画を掲載する。

8) 学会案内の作成と学会 PR、新入会員の勧誘

9) 国際分類学会(IFCS)への協力

分担金を負担する。

10) ジャーナル ADAC の発行

11) 他学会との交流と協力

- ・統計関連学会連合への協力
 - ・理事会への参加
 - ・連絡委員会，大会実行委員会への参加
 - ・プログラム委員会への参加
- ・ドイツ分類学会，イタリア分類学会への協力
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

3.2. 平成 21 年度予算案

12 ページの平成 21 年度予算書(表 2)を提示し，了承を得た。

4. 2010 年度統計関連連合大会の企画セッションについて

林幹事長より，連合大会の連合大会に企画セッションを出すということが提案され，承認がされた。

5. 今後の学会運営について

- 1) 2010 年度夏期にシンポジウムと総会，冬期に研究会を開催する
- 2) ジャーナル検討委員会を発足し，ジャーナルの発行について検討していく
- 3) 今後は ADAC と学会との連動性を高めていく方針である
- 4) 会報の発行を行い，学会活動を活発化し，また，活動内容の周知に努めていく
- 5) Web の運営方法の変更する

6. その他

- 1) 馬場会長より，ドイツ・カールスルーエにおいて，2010 年 7 月 20 日に第 3 回日独分類シンポジウムが，21 日から 24 日に GFKL が開催されることが報告された。
- 2) 国際学会対応委員の矢島先生より，イギリス・セントアンドリュースにおいて，2011 年 7 月に IFCS が開催されることが報告された。また，馬場会長から Program committee に多摩大学岡太彬訓氏と北海道大学水田正弘氏を推薦することについて提案がなされ，承認された。

●平成 22 年度総会議事録

日時：平成 22 年 7 月 31 日(土)

場所：青山学院大学 総研ビル

出席者 18 名 (委任状：23 名)

1. 議長選出

大津起夫氏(大学入試センター)を議長に選出した。

2. ジャーナルの創刊について

馬場会長から，ジャーナル創刊に関する審議状況の報告があった。ジャーナル発行検討委員会(岡太委員長)から運営委員会に提出された提案書に基づいて審議されており，運営委員会としては前向きに検討中であること，また，次回の総会で創刊についての審議を行いたいことが報告され，了承された。

3. Web の運営方法について

山本幹事から，多摩大学のサーバーから統計関連学会連合のサーバーに移行することについての報告があった。なお，ドメイン名は既に運営委員会です済みである「bunrui.jp」を用い，移行時期は，統計関連学会連合の夏の移行時期にあわせてなるべく早く移行する予定であるという報告がされ，承認された。

4. 第 4 回日独ワークショップの開催について

馬場会長より，2010 年 7 月 20 日と 21 日にカールスルーエで第 3 回日独分類シンポジウムが開催されたことが報告された。そして，第 4 回日独分類シンポジウムもなるべく早い時期(来年夏位)に開催したいという提案がされた。なお，第 3 回と第 4 回の発表のカンファレンスボリュームを刊行する予定であるが，第 1 回・第 2 回のカンファレンスボリュームの費用は日本側が負担したため，ドイツ側が費用を負担するという話になっているということも報告された。そして，第 4 回日独分類シンポジウムの開催を引き受けるということについての承認された。

4. その他

真鍋一史氏(青山学院大学)から学会入会についての問い合わせがあり，豊田幹事が状況を至急確認することとなった。

5. 報告事項

以下のような平成 22 年度事業計画案について林幹事長から告知があった。

1) 第 27 回通常総会の開催

平成 22 年年 7 月 31 日(土)

青山学院大学にて

2) 第 28 回通常総会の開催

2010 年度内にもう 1 度開催(時期や場所については検討中)

3) 第 27 回研究報告会及びシンポジウムの開催

2010 年 7 月 31 日(土)

青山学院大学にて

4) 運営委員会の開催

必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

以下の点を検討課題とする。

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛，統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

5) 幹事会の開催

電子メールにより，必要に応じて連絡をとり，審議する。

6) ジャーナルの創刊準備

7) 2010 年度統計関連学会連合大会の共催

2010 年 9 月 5 日(日)～8 日(水)

早稲田大学にて

8) セミナーの開催

9) ジャーナル ADAC の発行

10) Web サーバー関係

広報担当幹事が担当して，学会活動の報告，計画を掲載する。

11) 学会案内の作成と学会 PR，新入会員の勧誘

12) 国際分類学会(IFCS)への協力：分担金を負担

13) 他学会との交流と協力

- ・統計関連学会連合理事会への協力
 - ・理事会への参加
 - ・連絡委員会，大会実行委員会への参加
 - ・連合大会の共催
- ・ドイツ分類学会，イタリア分類学会への協力
 - ・第 3 回日独分類シンポジウム(2010 年 7 月 20 日～21 日)の報告
 - ・第 4 日独分類シンポジウム(2011 年)の提案
 - ・イタリア分類学会と共同の大会(2012 年)を開催する。
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

14) H23・H24 年度役員選挙

●平成 22 年度臨時総会議事録

日時：平成 22 年 12 月 19 日(日)

場所：多摩大学ルネッサンスセンター

出席者 16 名

1. 議長選出

宮原英夫氏(豊橋創造大学)を議長に選出した。

2.平成 21 年度事業報告ならびに決算報告

下記 2.1. および 2.2. について林幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

2.1. 平成 21 年度事業報告

1) 第 26 回通常総会の開催

平成 22 年 12 月 19 日(金)

九州大学にて

2) 第 26 回研究報告会の開催

平成 22 年 12 月 19 日(金)

九州大学にて

報告件数 9 件

3) 運営委員会の開催

以下の点について，主として電子メールを活用した打ち合わせを行った。

- ・シンポジウム，究報告会の開催，他学会への協賛
- ・統計関連学会連合へ対応
- ・統計関連の学会間の行事の調整や相互の情報提供を行う
- ・国内外の連絡調整窓口として機能する
- ・2009 年度の統計関連学会連合大会への協賛
- ・総会の議題

4) 運営委員会の開催

以下の点について，電子メールを活用した打ち合わせを行った。

- ・総会，研究報告会，シンポジウムの開催
- ・統計関連学会大会連絡委員会への参加
- ・総会の議題

5) 幹事会の開催

電子メールにより，必要に応じて連絡をとり審議した。

6) Web サーバーの運営

広報担当幹事が担当して，学会活動の報告，計画を掲載した。

7) 国際分類学会(IFCS)への協力

分担金を負担し様々な活動へ協力を行った。

8) 他学会との交流と協力

- ・統計関連学会連合への協力
 - ・理事会への参加
 - ・連絡委員会，大会実行委員会への参加
 - ・連合大会への協賛
- ・ドイツ分類学会，イタリア分類学会への協力
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

2.2. 平成 21 年度決算報告

会計幹事 2 名(繁樹算男氏，林文氏)の監査結果が林幹事長より説明があった(13 ページの決算報告書(表 3)を参照)。

3. 平成 22 年度事業計画ならびに予算

下記 3.1. および 3.2. について林幹事長より説明があった。いずれの事項も承認された。

3.1. 平成 22 年度事業計画

1) 第 27 回通常総会の開催

平成 22 年 7 月 31 日(土)
青山学院大学にて

2) 第 22 回研究報告会の開催

平成 22 年 7 月 31 日(土)
青山学院大学にて

3) 第 28 回臨時総会の開催

平成 22 年 12 月 19 日(日)
多摩大学にて

4) 第 28 回研究報告会の開催

平成 22 年 12 月 19 日(日)
多摩大学にて

5) シンポジウムの開催

平成 22 年 7 月 31 日(土)
青山学院大学にて

6) 運営委員会の開催

必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

以下の点を検討課題とする。

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛，統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

7) 幹事会の開催

電子メールにより，必要に応じて連絡をとり，審議する。

8) 2010 年度統計関連学会連合大会の共催

9) セミナーの開催

10) Web サーバー関係

広報担当幹事が担当して，学会活動の報告，計画を掲載する。

11) 国際分類学会(IFCS)への協力

分担金を負担する。

12) ジャーナル ADAC の発行

13) 和文ジャーナル発行に向けての準備

14) 次期役員選挙

15) 他学会との交流と協力

- ・統計関連学会連合への協力
 - ・理事会への参加
 - ・連絡委員会，大会実行委員会への参加
 - ・連合大会への協賛
- ・ドイツ分類学会，イタリア分類学会への協力
- ・要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

3.2. 平成 21 年度予算案

14 ページの平成 21 年度予算書(表 4)を提示し，了承を

得た。

4. 会費の値上げについて

林幹事長より会費の値上げについて説明があった。幹事会・運営委員会において審議した結果として「5,000 円の会費で納入率 70%を目指す案」が提案された。なお、「5,000 円の会費で納入率 70%を目指す案」の場合，ジャーナルを発刊するためには，赤字が発生するが，広告収入やセミナーを定期的に開催し収入の確保を目指すとともに，合わせて，未納入者に対して督促を行うなど会費の納入率を高めるように工夫していくということが報告された。会員から，会費値上げにいたった経緯，予算をマイナス計上にしてまでも和文誌を発行するにいたった経緯，会費納入率を高めるための具体的な方策についてのより詳しい説明が求められ，林幹事長よりそれぞれについてより詳しい説明が行われた。審議の結果，「5,000 円の会費で納入率 70%を目指す案」による会費の値上げが承認された。また，若年層の新規会員を獲得するために，学生会員を設定したいということが提案された。なお，学生会員を設定する場合には，入会金はとらず，学生会員から正会員に変更する際にも入会金はとらない計画であるということが報告された。学生会員を設定するかどうかについて審議され，了承された。なお，学生会員の選挙投票資格や学生会員資格の期間についても，次期の執行部で検討することが了承された。また，高齢会員に対する会費についての提案があり，今後の検討課題とすることとなった。

5. その他

- 1) 次期役員選挙について1月から着手するとともに，選挙管理委員として清水信夫氏(統計数理研究所)，横山暁氏(帝京大学)が運営委員会で選出されたことが林幹事長から報告された。
- 2) 和文誌の出版について岡太彬訓ジャーナル発行検討委員会委員長から説明が行われた。来年 7 月に創刊号を出版する予定であること，Tex と Word のスタイルシートや投稿規定なども整備していることなどが報告された。
- 3) 馬場会長から岡太彬訓ジャーナル発行検討委員会委員長を編集委員長に推薦するという提案があり，了承された。
- 4) 林幹事長から IFCS2011 が 8 月 30 日，GFKL2011 が 8 月 31 日から 9 月 2 日の日程でフランクフルトにおいて開催されることが報告された。
- 5) 林幹事長から第 4 回日独分類シンポジウムを同志社大学で 8 月 11 日と 12 日に開催し，その前日の 10 日に日本分類学会の研究報告会・総会を開催す

ることが報告された。

- 6) 林幹事長から第 29 回研究会および総会を 2011 年 8 月 10 日に同志社大学で開催すること大会実行委員長として宿久洋氏（同志社大学）に依頼したことが報告され。
- 7) 第 4 回日独分類シンポジウムについて宿久洋日本側組織委員(同志社大学)より案内と紹介が行われ、第 29 回研究報告会についても宿久洋実行委員長(同志社大学)から案内と紹介が行われた。
- 8) 岡太彬訓氏(多摩大学)から 2012 年 9 月にイタリア分類学会と共同の大会を開催することが報告された。

運営委員会記録

●平成 21 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 21 年 10 月 17 日
場所：多摩大学
出席者：10 名

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題

- ・平成 21・22 年度の幹事長として林篤裕氏（九州大学）の就任について
- ・山本義郎氏（庶務）、豊田裕貴氏（広報）、竹内光悦氏、中山厚徳氏の平成 21・22 年度幹事としての就任について
- 以下、平成 21・22 年度役員
- ＜新運営委員＞
- 足立浩平（大阪大学）、今泉 忠（多摩大学）、岡太彬訓（多摩大学）、大隅 昇、狩野 裕（大阪大学）、竹内光悦（実践女子大学）、土屋隆裕（統計数理研究所）、豊田裕貴（多摩大学）、林 篤裕（九州大学）、水田正弘（北海道大学）、村上征勝（同志社大学）、矢島敬二（東京理科大学）、宿久洋（同志社大学）、柳井晴夫（大学入試センター）、山口和範（立教大学）、山本義郎（東海大学）、吉野諒三（統計数理研究所）
- ＜会計監査＞
- 繁榊算男（帝京大学）、林文（東洋英和女学院大学）
- ・平成 20 年度事業報
- ・平成 20 年度決算報告
- ・平成 21 年度事業計画
- ・平成 21 年度予算案
- ・ジャーナル ADAC（Advances in Data Analysis and Classification）の購読者増加検討
- ・会員増加に対する検討
- ・日独分類学会シンポジウム成果出版（Cooperation

in Classification and Data Analysis）について

- ・ドイツ分類学会、イタリア分類学会への協力について
- ・各種委員と学会選出の役員について
- ・その他

●平成 21 年度第 2 回運営委員会

日時：平成 21 年 12 月 17 日～23 日
場所：電子メールによる
出席者（回答者）：16 名

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題：学会誌の発刊について

学会誌の編集方針や経済基盤等様々な観点からの検討を行ってもらう

学会誌検討委員会を発足させる。委員会構成は下記の通り。

委員長 岡太彬訓（多摩大）

委員 今泉忠（多摩大）、豊田裕貴（多摩大）、山本義郎（東海大学）、宿久洋（同志社大学）

●平成 21 年度第 3 回運営委員会

日時：平成 22 年 2 月 19 日
場所：九州大学
出席者：8 名

下記の議題について審議し過半数の了承が得られた。

議題

- ・Web の運営方法について
- ・ジャーナルの発行について
- ・統計関連学会連合大会の企画セッションについて
- ・総会の次第（議題）について
- ・その他

●平成 22 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 22 年 4 月 12 日～19 日
場所：電子メールによる
出席者（回答者）：16 名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

- ・真鍋一史先生の「実行委員長」就任について
- ・今泉忠先生の「幹事(シンポジウム担当)」就任について

- ・サーバーの移転と新 URL(bunrui.jp)の取得について

●平成 22 年度第 2 回運営委員会

日時：平成 22 年 7 月 31 日

場所：青山学院大学

出席者：11 名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

- ・ジャーナルの創刊について
- ・Web の運営方法について
- ・第 4 回日独分類シンポジウムの開催について
- ・シンポジウム謝金について
- ・総会の次第（議題）について
- ・その他

以下の報告事項があった。

- ・事業計画案について

●平成 22 年度第 3 回運営委員会

日時：平成 22 年 12 月 19 日

場所：多摩大学

出席者：12 名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

- ・総会の次第（議題）について
- ・会費の値上げについて
- ・ジャーナル発行について
- ・その他

●平成 22 年度第 4 回運営委員会

日時：平成 22 年 4 月 6 日～13 日

場所：電子メールによる

出席者（回答者）：11 名

下記の議題について審議し過半数の承認が得られた。

議題

- ・ジャーナル名
日本語名：「日本分類学会誌」
英語：「Journal of the Japanese Classification Society」
ISBN などはこの名前で取得する。
- ・当面の原稿の募集は、「日本分類学会誌（仮）」で行う

幹事会記録

●平成 21・22 年度幹事会報告

各運営委員会、総会前後の会議および随時電子メール、電話等により打ち合わせを行った。

1. 平成 21・22 年度運営委員会開催
2. 平成 21・22 年度年次計画および予算計画
 - (a) 総会開催
 - (b) 研究報告会開催
 - (c) シンポジウム会開催
3. 平成 21 年度会計監査
4. 今後の学会事業について
 - ・ジャーナルの創刊について
 - ・会報の発行について
 - ・IFCS のニューズレターについて
 - ・Web の運営方法について
 - ・ADAC の会員への配布について
 - ・第 4 回日独分類シンポジウムについて
 - ・入会案内の整備
 - ・学会賞設置の検討
5. 会費の納入について
6. 会員情報の精査（新入会員および近年の会員入会についての確認）
7. 会費の値上げについて
8. 統計関連学会連合の参加について
 - ・統計関連学会連合大会における企画セッションについて
 - ・役員・委員の派遣について
9. 次期役員選挙について

表1. 平成20年度決算報告書

平成20年度決算書					
平成20年4月1日から平成21年3月31日まで					
科目	細目	予算額	決算額	増減	備考
単位:円					
I. 収入の部					
入会金		15,000	0	△ 15,000	
会費収入		383,500	357,000	△ 26,500	
	(平成20年度分)正会員	223,500	267,000	43,500	
	(平成20年度分)賛助会員	150,000	90,000	△ 60,000	
	新入会員	10,000	0	△ 10,000	
雑収入		90,000	67	△ 89,933	
	予稿集売上	10,000	0	△ 10,000	
	研究報告会	60,000	0	△ 60,000	(シンボ含む)参加費(報告集代金を含む)
	利子収入	20,000	67	△ 19,933	
A 当期収入合計		488,500	357,067	△ 131,433	
B 前期繰越金		554,645	554,645	0	
C 収入合計(A+B)		1,043,145	911,712	△ 131,433	
II. 支出の部					
経常運営関係費		250,000	22,560	227,440	
	会報印刷代(JCS 会報)	120,000	0	120,000	
	会報印刷代(IFCS 会報)	100,000	0	100,000	
	連絡用印刷費(葉書等)	30,000	22,560	7,440	
大会開催費(研究報告会・共催)		150,000	4,524	145,476	
	研究報告会報告集印刷代等	50,000	0	50,000	
	開催費(茶菓子等)	100,000	4,524	95,476	
事務費		40,000	0	40,000	
	人件費(交通費含む)	20,000	0	20,000	
	事務用品費	20,000	0	20,000	
通信郵送費		90,000	60,000	30,000	
	会報送料	20,000	0	20,000	
	会費請求等連絡通信費	50,000	0	50,000	
	切手, その他	20,000	60,000	△ 40,000	
運営分担金		70,000	20,210	49,790	
	IFCS	30,000	0	30,000	
	統計関連学会連合	40,000	20,210	19,790	
ジャーナル発行費		194,500	0	194,500	
	ADAC	194,500	0	194,500	
D 当期支出合計		794,500	107,294	687,206	
E 当期収支差額(A-D)		△ 306,000	249,773	△ 555,773	
F 次期繰越収支差額(C-D)		248,645	804,418	△ 555,773 決算での予備費	
G 支出合計(D+F)		1,043,145	911,712	131,433	
	日本分類学会会則第10条に基づき、平成20年4月1日から平成21年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。				
			平成 年 月 日		
			日本分類学会 会計監事		

(正式な監査報告書には両委員の署名押印と日付あり)

表2. 平成21年度予算書

平成21年度予算					
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで					
科目	細目	予算額(H21)	(参考)H20年度	増減	備考
単位:円					
I. 収入の部					
入会金		15,000	15,000	0	
会費収入		396,000	383,500	12,500	
	正会員	276,000	233,500	42,500	152人の60%(91.2人)≒92名×3000
	賛助会員	120,000	150,000	△30,000	4社×30000
雑収入		60,100	90,000	△29,900	
	予稿集売上	0	10,000	△10,000	
	研究報告会	60,000	60,000	0	(シンポ含む)参加費(報告集代金を含む)
	利子収入	100	20,000	△19,900	
特別収入		250,000	0	250,000	
	セミナー開催	250,000			
A 当期収入合計		721,100	488,500	232,600	
B 前期繰越金		804,418	554,645	249,773	
C 収入合計(A+B)		1,525,518	1,043,145	482,373	
II. 支出の部					
経常運営関係費		250,000	150,000	100,000	
	会報印刷代(JCS会報)	120,000	120,000	0	
	学会案内作成代	100,000	0	100,000	学会の案内用パンフレット作成費用として新規に計上
	連絡用印刷費(葉書等)	30,000	30,000	0	
大会開催費(研究報告会・共催)		150,000	150,000	0	
	研究報告会報告集印刷代等	50,000	50,000	0	
	開催費(茶菓子等)	100,000	100,000	0	
事務費		40,000	40,000	0	
	人件費(交通費含む)	20,000	20,000	0	
	事務用品費	20,000	20,000	0	
通信郵送費		90,000	90,000	0	
	会報送料	20,000	20,000	0	
	会費請求等連絡通信費	50,000	50,000	0	
	切手, その他	20,000	20,000	0	
運営分担金		70,000	70,000	0	
	IFCS	30,000	30,000	0	
	統計関連学会連合	40,000	40,000	0	
積立		250,000	194,500	55,500	
	特別事業のための積立	250,000	194,500	55,500	
D 当期支出合計		850,000	694,500	155,500	
E 当期収支差額(A-D)		△128,900	△206,000	77,100	
F 次期繰越収支差額(C-D)		675,518	348,645	326,873	決算での予備費
G 支出合計(D+F)		1,525,518	1,043,145	482,373	

表3. 平成21年度決算報告書

平成21年度決算報告書					日本分類学会
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで					
					単位:円
科目	細目	予算額	決算額	増減	備考
I. 収入の部					
入会金		15,000	6,000	△ 9,000	(正会員2名、賛助会員1社)
会費収入		396,000	294,000	△ 102,000	
	正会員	276,000	234,000	△ 42,000	78名×3,000円(未払い6力年分を含む)
	賛助会員	120,000	60,000	△ 60,000	2社×30,000円
雑収入		60,100	36,023	△ 24,077	
	予稿集売上	0	0	0	
	研究報告会	60,000	36,000	△ 24,000	18名×2,000円
	利子収入	100	23	△ 77	
特別収入		250,000	0	△ 250,000	
	セミナー開催	250,000	0	△ 250,000	
A 当期収入合計		721,100	336,023	△ 385,077	
B 前期繰越金		804,418	804,418	0	
C 収入合計(A+B)		1,525,518	1,140,441	△ 385,077	
II. 支出の部					
経常運営関係費		250,000	0	250,000	
	会報印刷代(JCS 会報)	120,000	0	120,000	会報未発行のため
	学会案内作成代	100,000	0	100,000	学会の案内用パンフレット作成費用
	連絡用印刷費(葉書等)	30,000	0	30,000	
大会開催費(研究報告会・共催)		150,000	27,166	122,834	
	研究報告会報告集印刷代等	50,000	26,334	23,666	
	開催費(茶菓子等)	100,000	832	99,168	
事務費		40,000	0	40,000	
	人件費(交通費含む)	20,000	0	20,000	
	事務用品費	20,000	0	20,000	
通信郵送費		90,000	39,915	50,085	
	会報送料	20,000	0	20,000	会報未発行のため
	会費請求等連絡通信費	50,000	12,640	37,360	
	ADAC発送費	0	25,695	-25,695	ADAC発送費用が生じたため
	切手、その他	20,000	1,580	18,420	
運営分担金		70,000	43,792	26,208	
	IFCS	30,000	43,792	-13,792	2年分(2009-10) 400ドル+振り込み経費
	統計関連学会連合	40,000	0	40,000	H22年度予算にて処理
積立		250,000	0	250,000	
	特別事業のための積立	250,000	0	250,000	
D 当期支出合計		850,000	110,873	739,127	
E 当期収支差額(A-D)		△ 128,900	225,150	△ 354,050	
F 次期繰越収支差額(C-D)		675,518	1,029,568	△ 354,050	決算での予備費
G 支出合計(D+F)		1,525,518	1,140,441	385,077	
日本分類学会会則第10条に基づき、平成21年4月1日より平成22年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。					
平成 年 月 日					
日本分類学会 会計監事					

(正式な監査報告書には両委員の署名押印と日付あり)

表 4. 平成 22 年度予算書

平成 22 年度予算案					
平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで					日本分類学会
					単位:円
科目	細目	予算額	決算額	増減	備考
I. 収入の部					
入会金		15,000	6,000	△ 9,000	(正会員2名、賛助会員1社)
会費収入		396,000	294,000	△ 102,000	
	正会員	276,000	234,000	△ 42,000	78名×3,000円(未払い6カ年分を含む)
	賛助会員	120,000	60,000	△ 60,000	2社×30,000円
雑収入		60,100	36,023	△ 24,077	
	予稿集売上	0	0	0	
	研究報告会	60,000	36,000	△ 24,000	18名×2,000円
	利子収入	100	23	△ 77	
特別収入		250,000	0	△ 250,000	
	セミナー開催	250,000	0	△ 250,000	
A 当期収入合計		721,100	336,023	△ 385,077	
B 前期繰越金		804,418	804,418	0	
C 収入合計 (A+B)		1,525,518	1,140,441	△ 385,077	
II. 支出の部					
経常運営関係費		250,000	0	250,000	
	会報印刷代(JCS 会報)	120,000	0	120,000	会報未発行のため
	学会案内作成代	100,000	0	100,000	学会の案内用パンフレット作成費用
	連絡用印刷費(葉書等)	30,000	0	30,000	
大会開催費(研究報告会・共催)		150,000	27,166	122,834	
	研究報告会報告集印刷代等	50,000	26,334	23,666	
	開催費(茶菓子等)	100,000	832	99,168	
事務費		40,000	0	40,000	
	人件費(交通費含む)	20,000	0	20,000	
	事務用品費	20,000	0	20,000	
通信郵送費		90,000	39,915	50,085	
	会報送料	20,000	0	20,000	会報未発行のため
	会費請求等連絡通信費	50,000	12,640	37,360	
	ADAC発送費	0	25,695	-25,695	ADAC発送費用が生じたため
	切手、その他	20,000	1,580	18,420	
運営分担金		70,000	43,792	26,208	
	IFCS	30,000	43,792	-13,792	2年分(2009-10) 400ドル+振り込み経費
	統計関連学会連合	40,000	0	40,000	H22年度予算にて処理
積立		250,000	0	250,000	
	特別事業のための積立	250,000	0	250,000	
D 当期支出合計		850,000	110,873	739,127	
E 当期収支差額 (A-D)		△ 128,900	225,150	△ 354,050	
F 次期繰越収支差額(C-D)		675,518	1,029,568	△ 354,050	決算での予備費
G 支出合計 (D+F)		1,525,518	1,140,441	385,077	

研究報告会記録

●第23回研究報告会

日時：2006年11月25日(土)～26日(日)

会場：多摩大学ルネッサンスセンター

大会プログラム

11月25日(土)

日韓セッション(15:00～17:00)

座長：林篤裕(大学入試センター)

- The Measurement of Crime Severity
井上寛(九州工業大学)
- Tree Structured Prognostic Model for Hepatocellular Carcinoma Patients with Gene Data
Lee, Taerim(Korea National Open University)
- Mixture Models for Multivariate Count Data
山口和範(立教大学)
- On Clustering of Time Varying Data
今泉忠(多摩大学)

11月26日(日)

招待講演(9:30～11:30)

座長：矢島敬二(東京理科大学)

- Multidimensional Scaling of Asymmetric Relationships
岡太彬訓(立教大学)
- Detecting Multiple Outliers in Linear Regression Using a Cluster Method Combined with Graphical Visualization
Kim, Sung-Soo(Korea National Open University), Krzanowski, W. J. (University of Exeter)

一般セッション1(12:30～14:20)

座長：土屋 隆裕(統計数理研究所)

- 職業評定の構造—日本と韓国の比較—
元治恵子(立教大学), 中山厚穂(立教大学)
- 単相3元重複クラスター分析におけるMAPCLUSに基づくアルゴリズムの研究
横山暁(慶應義塾大学), 中山厚穂(立教大学), 岡太彬訓(立教大学)
- 会話から読み解く漫画「ルパン三世」の順応化
小倉圭(立教大学), 中山厚穂(立教大学), 岡太彬訓(立教大学)
- 3元多次元尺度構成法と残差分析
中山厚穂(立教大学)
- ベイズ的アプローチによる非計量多次元尺度構成法
岡田謙介(東京大学), 繁樹算男(東京大学)

一般セッション2(14:40～16:30)

座長：河野康成(立教大学)

- 索引と目次情報を利用した文献マッピング
石塚隆男(亜細亜大学)
- 潜在クラスモデルによる共変量調整のインターネット調査への適用
徐順(立教大学), 酒折文武(立教大学), 山口和範(立教大学)
- 確率モデルによるCDヒット商品の需要予測と普及メカニズムの解析
澁谷浩太郎
- 世帯パネルと個人パネルを用いた購買行動分析
齊藤俊則(立教大学)
- Exploring the Possibilities of the Facet Approach in the Context of Japanese Reality
真鍋一史(関西学院大学)

●第24回研究報告会

日時：2008年3月21日(金)～3月22日(土)

会場：多摩大学ルネッサンスセンター

大会プログラム

3月21日(土)

International section(14:00～16:30)

The presentation material such as PPT is written in English

- 自信の予見とトレンド
近藤明良(元拓殖大学), 西尾篤人(拓殖大学)
- Estimation of number of common elements by samples from several sets
Naofumi Sakaguchi(The Institute for Research on Household Economics), Yasumasa Baba(The institute of Statistical Mathematics)
- The Structure of Japanese Religiosity: The Methodological Advantages of Smallest Space Analysis
Kazufumi Manabe(Kansei Gakuin University)
- Construction of the Japanese Word Association Database: Graph Analyses of Initial JWAD Network Representation
Terry Joyce(Tama University)
- 制約を持つ多変量度数データのための潜在クラスモデル
山口和範(立教大学)

3月22日(土)

特別講演(11:00~12:00)

- ・分類して、説明し、予測する(ベイズ的階層モデルの応用)
繁樹算男(東京大学)

一般セッション(13:30~16:00)

- ・階層的クラスターbiplot表示
山本義郎(東海大学), 鈴木聡史(東海大学)
- ・ファジィインクリメンタルクラスタリング手法とその応用
川上功(筑波大学), 佐藤美佳(筑波大学)
- ・低次元空間表現のための手法について
今泉忠(多摩大学)
- ・ブースティングによる分類について
林賢一(大阪大学), 狩野裕(大阪大学)

●第25回研究報告会

日時: 2009年3月21日(土)

会場: 多摩大学ルネッサンスセンター

大会プログラム

セッション1(13:10~14:35)

- ・2つの対象間の関係を考慮した単相3元MDSについての研究
中山厚徳(立教大学)
- ・重複クラスター分析法を用いた単相親近度データの分析
横山暁(慶應義塾大学), 中山厚徳(立教大学), 岡太彬訓(多摩大学)
- ・ブランド連想の2時点比較への不平等尺度の応用
豊田裕貴(多摩大学)

セッション2(14:50~16:15)

- ・文章構造の可視化のためのメトリックに関する考察
石塚隆男(亜細亜大学)
- ・潜在クラス分析における局所独立性による分類に関する考察
山口和範(立教大学)
- ・選好度データ分析のための領域を用いたモデルの提案
今泉忠(多摩大学)

●第26回研究報告会

日時: 2010年2月19日(金)

会場: 九州大学 アドミッションセンター

開会挨拶(13:00~13:05)

馬場康維(統計数理研究所)

セッション1(13:05~14:45)

座長: 林篤裕(九州大学)

- ・国際交流基金の事業評価調査のデータ解析—
Multimethod Data Analysis と Exploratory Data Analysis —
真鍋一史(青山学院大学), 川端亮(大阪大学), 巖岩晶(明治学院大学)
- ・地震
近藤明良(元拓殖大学), 西尾篤人(拓殖大学)
- ・次元の分割による共著論文データの解析
孫媛(国立情報学研究所), 馬場康維(新領域融合研究センター/統計数理研究所), 根岸正光(国立情報学研究所)
- ・単相3元データ分析の必要性に関する一考察
横山暁(慶應義塾大学), 岡太彬訓(多摩大学)
- ・選好度データ分析のための参照点モデルの提案
今泉忠(多摩大学)

セッション2(14:55~16:20)

座長: 竹内光悦(実践女子大学)

- ・高次元データにおける2次形式の近似について
藤本翔太(大阪大学), 狩野裕(大阪大学)
- ・サポートベクターマシンにおける情報量基準とその応用
梅原武志(大阪大学)
- ・データ標準化の階層的クラスタリング結果に及ぼす影響について
谷岡健資(同志社大学), 寺田吉壺(同志社大学), 宿久洋(同志社大学)
- ・区間値非類似性データに対する多次元尺度構成法
寺田吉壺(同志社大学), 宿久洋(同志社大学)

●日本分類学会シンポジウム・第27回研究報告会

日時: 2010年7月31日(土)

会場: 青山学院大学 総研ビル

大会プログラム

シンポジウム「データを分類したその後は？」(11:00~12:00)

- ・クラスター分析の活用: その可能性と不全性
鈴木督久(日経リサーチ)
- ・制約条件のあるクラスタリングについて
鎌倉稔成(中央大学・理工)
- ・クラスター分析と判別分析の活用について
今泉忠(多摩大学経営情報学部)

研究報告会(13:00~17:00)

開会挨拶(13:00~13:05)

馬場康維(統計数理研究所)

セッション1(13:05~14:30)

座長：林篤裕(九州大学)

・ Approaching the Future with Multiple Scenario Analysis including Two-Mode Clustering Procedures
Matthias J. Kaiser (BTU Cottbus), Daniel Baier (BTU Cottbus)

・ 離散値データへの ADCLUS 型モデルの適用
今泉 忠(多摩大学)

・ A non-parametric analysis for a questionnaire survey
上野隆彦(聖マリアンナ医科大学)

・ 「次元の確定」という視座からのデータの分類—社会科学の領域における「理論の構築」のために—
真鍋一史(青山学院大学)

セッション2(14:45~15:50)

座長：山本義郎(東海大学)

・ 内容ベースフィルタリングを用いた動画検索サイトの利用履歴分析
阿部寛康(同志社大学大学院), 池田健人(同志社大学大学院), 波多野賢治(同志社大学), 宿久洋(同志社大学)

・ 区間値非類似性データに対する超球モデル MDS について
寺田吉壺(同志社大学大学院), 宿久洋(同志社大学)

・ 弱震波形と強震波形
西尾篤人(拓殖大学), 近藤明良(元拓殖大学)

●第28回研究報告会

日時：2010年12月19日

会場：多摩大学ルネッサンスセンター

大会プログラム

招待講演(13:00~13:45)

・ Research Issues in K-means Clustering
Myung-Hoe HUH(Korea University)

セッション1(13:45-15:00)

・ 非階層クラスター分析の結果を用いた階層クラスター分析法
岡太彬訓(多摩大学大学院)

・ 多層クラスター分析法
岡太彬訓(多摩大学大学院), 横山暁(帝京大学)

・ 重複クラスター分析法における外部分析
横山暁(帝京大学), 岡太彬訓(多摩大学大学院)

・ 対象の密集度を考慮した重複クラスタリング法の提案
齊藤裕一(同志社大学大学院), 寺田吉壺(同志社大学大学院), 宿久洋(同志社大学)

・ 非類似度の距離表現・外積表現の統合とブランドスイッチングデータへの適用
熊谷敦也(日本大学)

セッション2(15:15-16:45)

・ 多元データを用いた選択行動データの解析
上遠野豊(同志社大学大学院), 宿久洋(同志社大学)

・ ジニ係数を用いた購買日の周期性評価について
阿部寛康(同志社大学大学院), 寺田吉壺(同志社大学大学院), 宿久洋(同志社大学)

・ 距離を考慮した居住地域分類(ジオデモグラフィック)の一つの試み:1都3県の事例
草野邦明(財団法人統計情報研究開発センター)

・ 趣味・娯楽の活動の時間について
村田磨理子(財団法人統計情報研究開発センター)

・ 臨床検査の基準値設定におけるブートストラップ法の利用
宮原英夫(豊橋創造大学), 後藤寛司(豊橋創造大学), 清水和彦(豊橋創造大学), 池田憲昭(北里大学)

・ 地震(強震の中の弱震)
近藤明良(元拓殖大学), 西尾篤人(拓殖大学)

IFCS (国際分類学会連合) 関連

●IFCS2011について

IFCS (国際分類学会連合) 理事 岡太彬訓
山口和範

今年の IFCS2011 は Symposium of the International Federation of Classification Societies として、8月30日にドイツ連邦共和国フランクフルトにて開催されます。このシンポジウムは、8月31日から9月2日に開催されるドイツ分類学会 (GfKI: German Classification Society) 大会およびドイツパターン認識学会 (DAGM: the German Association for Pattern Recognition) 大会に先立って開催されます。このシンポジウムと大会の Web site の URL は以下の通りです。

<http://www.online.uni-marburg.de/gfkl2011/>

当初、IFCS2011 は、英国セント・アンドリュース大学で開催予定でしたが、IFCS の執行部と現地で実際に開催にあたる側の間で IFCS2011 の運営に関するいくつかの点で意見の一致に至らなかったため会場が変更になりました。英国分類学会 (British Classification

Society) とセント・アンドリュース大学では、それまで準備してきた大会を International Classification Conference 2011 として開催するとのことです。フランクフルトでの IFCS2011 の際には、IFCS の理事会が開催されるものと思います。その際に、この間の事情の一端が詳らかにされることも考えられます。

フランクフルトは、日本からの直行便も多数あります。皆様方のご参加をお勧めいたします。

(岡太彬訓, 多摩大学大学院経営情報学研究所 ;
山口和範, 立教大学経営学部)

関連学会活動

●2011 年度統計関連学会連合大会について

2011 年 7 月 11 日

2011 年度統計関連学会連合大会について (第三報)

連合大会

実行委員会委員長 前園宜彦 (九州大学)
プログラム委員会委員長 西井龍映 (九州大学)
運営委員会委員長 中村永友 (札幌学院大学)

2011 年度統計関連学会連合大会の第一報、第二報に続き、「第三報」をお届けします。本報が本大会に関する最後のご案内です。本報は連合大会について簡潔にまとめを行い、皆様の便宜をはかりたいと思います。今後、詳細プログラムや変更事項は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

に掲載いたしますので、どうぞご参照ください。

すでに 5 月 9 日 (月) から 6 月 3 日 (金) まで講演申し込みを受け付けいたしました。おかげさまで、企画セッション講演 57 件 (企画セッション 16)、コンペティション講演 29 件、一般講演 213 件の申し込みを頂きました。誠にありがとうございました。

1. 大会日程

本大会に関する今後の日程は次の通りです。

大会開催日程: 2011 年 9 月 4 日 (日) から 7 日 (水) までの 4 日間

9 月 4 日: チュートリアルセッションと市民講演会 (アクロス福岡 福岡市中央区)

9 月 5~7 日: 本大会 (九州大学 伊都キャンパス センターゾーン 2 号館)

懇親会: 9 月 6 日 (火) 18:00~: ビッグさんど食堂 (本大会会場に隣接した建物の B1 ビッグダイニング)

事前参加申し込み: 7 月 19 日 (火) 9:00~

8 月 19 日 (金) 17:00

※原稿提出は 7 月 10 日 (日) 17:00 に締め切りしました。

2. 会場

今回の連合大会は、初日の 9 月 4 日 (日) を福岡市の中心地にあるアクロス福岡で、2 日目から 4 日目の 9 月 5 日 (月) 午前から 7 日 (水) 午後までを、本大会として九州大学 伊都キャンパスで行います。

(1) 九州大学 伊都キャンパスへのアクセスは、ウェブページの「会場」欄をご参照下さい。最寄り駅である JR 九大学研都市駅からは無料専用バスを用意しております。

(2) アクロス福岡へのアクセスも、ウェブページの「会場」欄をご参照下さい。地下鉄天神駅の 16 番出口から直結しております。

(3) 本大会の会場は、伊都キャンパスのセンターゾーン 2 号館の 9 教室を使います。

センターゾーン 2 号館 2 階

受付: 2201 教室

企業展示: 2215, 2216 教室

センターゾーン 2 号館 3 階

A 会場: 2303 教室

B 会場: 2304 教室

C 会場: 2305 教室

D 会場: 2306 教室

E 会場: 2308 教室

センターゾーン 2 号館 4 階

F 会場: 2403 教室

G 会場: 2404 教室

H 会場: 2406 教室

I 会場: 2407 教室

※ 震災特別企画セッション (9 月 5 日 (月) 15:30 から) のみ稲盛財団記念館で行います。

(4) 保育室は、伊都キャンパス内に設けます。

(5) 懇親会は、6 日 (火) 18 時より、本大会会場の隣の建物のビッグさんど食堂 (B1 ビッグダイニング) で行います。

(6) 閉会式は、7 日 (水) 12 時 10 分より F 会場 (2403 教室) で行います。

3. 参加申し込み

大会に先立って、大会参加申し込みと懇親会の申し込みをウェブページの「申し込み」欄よりお手続き下さい。申し込み期間は 7 月 19 日 (火) 午前 9 時より 8 月 19 日 (金) 午後 5 時までです。カード決済と銀行振り込みがご利用いただけます。事前の申し込みは、当

日受付に比べて大幅な割引がございますので、ぜひご利用下さい。

大会参加費（講演報告集代を含む）、チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）、懇親会参加費とも、会員（共催6学会の学会員）・学生（学会員、非会員を問わず）・学生以外の非会員により参加費が異なります。詳しくはウェブページの「大会詳細」をご覧ください。市民講演会は無料です。ただし、チュートリアルセッションについては、非会員の方は参加費と資料代が別料金となっております。

なお、非会員の招待者（企画セッション講演者、討論者等）の方を除き、すべての講演者（一般・企画セッション・コンペティション講演を問わず）の方も参加申し込みのお手続きが必要です。お忘れなきよう、よろしく願いいたします。

4. 保育室

今年度も保育室を開設します。

設置期間：9月5日（月）～7日（水）（4日は設置しません）

設置時間：プログラム開始30分前から終了30分後まで

場所：伊都キャンパス内

対象：原則として、0歳児から6歳児（小学校入学前）まで

保育者：社会福祉法人「わらべ福祉会」所属の2名以上の職員

利用料金：1日2,000円

締め切り：7月25日（月）

申込先：二宮嘉行（保育室委員）

nino_at_imi.kyushu-u.ac.jp

（_at_ を @ にご変更ください）

ご利用をご希望になる方は、できるだけ早くメールにて上記までご連絡下さい。お問い合わせの際には、暫定の利用日時とお子様の年齢をご記入下さい。また、例年より早い締め切りとなっておりますので、ご注意ください。詳細な利用規定や正式の申込書・同意書については、後日お送りいたします。

その他、ご質問・ご要望がありましたら、上記メールアドレスにご連絡下さい。

5. 大会プログラム

プログラムおよび大会案内は、参加申し込み開始前の8月上旬を目処にウェブページで公開いたします。また同時に各学会にもお知らせいたします。ウェブページで公開しさらにPDF版を用意いたします。プログ

ラムは講演報告集にも掲載します。事前に印刷物冊子は学会を通して配布いたしませんのでご注意ください。

なお、講演者および共同発表者の所属は講演申し込み時点のものです。

6. チュートリアルセッション

チュートリアルセッションは2つのテーマを用意いたしました。

日時：2011年9月4日（日）13:00～16:00

会場：アクロス福岡

受付開始：12:30

テーマA：「ゲノム情報に基づく個別化医療へ：マルチオミックスデータと統計解析」

講演者：井元 清哉（東京大）

会場：アクロス福岡 4F 国際会議場

講演時間：13:00～16:00

テーマB：「時空間統計学の理論と経済・脳信号データ分析への応用」

講演者：松田 安昌（東北大）、吉田 あつし（筑波大）、三分一 史和（統数研）

会場：アクロス福岡 7F 大会議室

講演時間：13:00～16:00

2つの講演は同じ時間帯に開催されますので、どちらか一方のテーマをお選びください。なお、途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金はかかりません。

事前参加受付は、ウェブページの「申し込み」欄から手続きができます（9月19日（金）17:00まで）。あらかじめ参加費を納めていただく場合は、割引が受けられます。学生には特に大幅な割引があります。当日参加も受け付けます。当日受付の場合、参加費（資料代含む）は、会員（共催、協賛の6学会の会員）3,000円、学生（会員・非会員を問わず）3,000円です。学生以外の非会員は6,000円（参加費3,000円、資料代3,000円）です。

7. 市民講演会

今年の市民講演会では、以下のテーマで2名の先生方にご講演をお願いいたしました。多くの方々のご参加をお待ちしております。参加費は無料です。

日時：2011年9月4日（日）16:30～18:00

会場：アクロス福岡 4F 国際会議場

受付開始：15:30

テーマ1：「若紫やさぶらう — いま『源氏物語』をコンピュータで読む」

講演者：村上 征勝（同志社大）

時間：16:30～17:15

テーマ2：「新学習指導要領で目指すものー統計の内容を中心にー」

講演者：長尾 篤志（国立教育政策研）

時間：17:15～18:00

グ学会共同企画セッション「リモートセンシングデータの統計的モデル化と解析」：清水 邦夫（慶應義塾大），福田 徹（宇宙航空研究開発機構）

G会場 日本統計学会会長講演：岩崎 学（成蹊大）

I会場 日本分類学会 医学データの分類と判別：栗原 考次（岡山大）

8. 企画セッション等一覧

震災特別企画セッションとソフトウェア・デモセッションを含めて16件の企画セッションを設けます。各セッションが配置されている時間帯、会場、テーマとオーガナイザーは以下の通りです。詳細プログラム、テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましてはウェブページをご覧ください。

企画セッション名とオーガナイザー

9月5日（月）10:00-12:00

D会場 欠測データ解析とその周辺：狩野 裕（大阪大）

G会場 統計教育の充実とその評価に対する取り組み：藤井 良宜（宮崎大）

I会場 日本計量生物学会シンポジウム「非劣性試験における統計学的課題」：高橋 邦彦（国立保健医療科学院），服部 聡（久留米大）

9月5日（月）13:00～15:00

D会場 計算代数統計学の展開：原 尚幸（新潟大），竹村 彰通（東京大）

G会場 ソフトウェア・デモセッション：統計関連学会連合

I会場 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演：手良向 聡（京都大）

9月5日（月）15:30～18:00（予定）

G会場 Model Selection and Model Averaging ～ 最近の展開：西山 慶彦（京都大）

稲盛財団記念館

震災特別セッション「大震災の科学的評価と人間行動」：統計関連学会連合

※ 稲盛財団記念館は本会場を出ていただき、中央の通りの坂道を上って、5分ほど歩いていただきます。

9月6日（火）10:00～12:00

D会場 応用統計学会・日本リモートセンシ

9月6日（火）13:10～15:10

D会場 応用統計学会 環境・生態データのモデル化と解析：清水 邦夫（慶應義塾大）

G会場 日本統計学会各賞受賞者講演：岩崎 学（成蹊大）

9月6日（火）15:30～17:30

B会場 統計学初級中級講座「統計的因果推論入門」：岩崎 学（成蹊大）

D会場 応用統計学会 学会賞受賞者講演：黒木 学（大阪大），永田 靖（早稲田大）

I会場 マルチオミックスデータ解析によるトランスレーショナルメディシンの統計的諸問題：井元 清哉（東京大），山口 類（東京大），樋口 知之（統数研）

9. コンペティション

今年度も若手会員の質の高い研究・発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。コンペティション講演セッションは、9月5日（月）10:00～15:00にB会場とC会場で行います。29名と多数の応募がありましたので、各発表を15分とさせていただきます。なお表彰式は懇親会会場にて、懇親会開始時の9月6日（火）18:00から執り行います。詳細はウェブページの「コンペセッションの概要について」をご覧ください。

●その他

日本計算機統計学会 第25回シンポジウム

日程：2011年11月11日（金）～12日（土）

場所：海雲台グランドホテル

HAEUNDAE GRAND HOTEL, Busan, South Korea

URL：<http://jscs.jp/sympo/25/>

日本行動計量学会 第39回大会

日程：2011年9月11日（日）～14日（水）

場所：岡山理科大学

URL：<http://www.bsjs2011.org/index.html>

国際会議開催情報

International Statistical Institute, 58th ISI World Statistics Congress

Date: August 21 – 26, 2011

Venue: Convention Centre Dublin (CCD), Ireland

<http://www.isi2011.ie/content/>

なお、ISI の Web site に最新の国際会議情報が掲載されています。詳しくは、

<http://isi.cbs.nl/calendar.htm>
を参照ください。

事務局から

●第 29 回研究報告会のお知らせ

開催日時：平成 23 年 8 月 10 日(水)13 時 00 分～

会 場：同志社大学室町キャンパス寒梅館

会議室 地 A

京都市営地下鉄烏丸線・今出川駅

2 番出口より徒歩 3 分

<http://www.doshisha.ac.jp/>

[information/facility/kanbai/](http://www.doshisha.ac.jp/information/facility/kanbai/)

URL <http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/jcs29/>

参加費： 会員：3,000 円 学生の会員：1,000 円

非会員：5,000 円 非会員学生：3,000 円

※賛助会員の組織からの参加については 5 名
まで会員扱いにいたします。

第 29 回研究報告会についての詳細は、研究報告会
Web site (<http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/jcs29/>) を
ご参照下さい。

また、究報告会についてのお問い合わせは、研究報告
会事務局（宿久洋）までお願い致します。

日本分類学会 第 29 回研究報告会事務局

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1 - 3

同志社大学文化情報学部 気付

TEL: 0774-65-7662 / FAX: 0774-65-7662

E-mail: jcs29thmeeting@gmail.com

(日本分類学会第 29 回研究報告会事務局)

URL: <http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/jcs29/>

●事務局のメールアドレス変更について

本学会の事務局のメールアドレスが、
office@bunrui.jp に変更になりました。今後は、こち
らの新アドレス宛てにご連絡下さいますようお願い
申し上げます。

●日本分類学会ホームページ

ホームページの URL は、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>
です。研究会の予定などの掲載情報を広く募集して
おります。詳しくは事務局までご連絡ください。

■編集後記

今号に寄稿いただいた皆様には、紙面を借りて、お礼
申し上げます。お忙しいところ、ありがとうございました。また、会報の発行が遅れたことをお詫び申し上
げます。今後は、Web site (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>)
とともに、会報の内容も充実させていきたいと考えま
す。

編集担当: 中山厚穂(首都大学東京)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1

多摩大学気付

学会事務担当：豊田裕貴

TEL: 042-337-7265

FAX: 042-337-7103 (日本分類学会宛を明記のこと)

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>